

東っ子

H27. 10. 19
甲府市立東小学校
号 外

学校教育目標
「楽しみがゆきわたる」
かしこく なかよく たくましく

本年4月21日（火）に実施した全国学力学習状況調査の結果について報告いたします。

調査は小学校6年生が対象です。内容は、①教科に関する問題（国語と算数と理科）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査となっています。国語と算数は、A問題・B問題の2種類があり、Aは「知識」に関する問題、Bは「活用」に関する問題となっています。理科は1種類で、知識と活用の問題の両方が入っています。

調査の目的は、児童の学力や学習状況、生活状況等を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにし、今後の学習指導や生活習慣の改善に役立てていくことです。

このたび、本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載して参ります。また、地域の皆様にも、回覧をしていただき、お知らせして参ります。なお、調査に参加した6年生及び保護者には、各自に個人票をもとに具体的に課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

報告します 「全国学力・学習状況調査の分析結果の概要」

1 本校の状況

国語は、国語A、国語Bともに全国平均及び県平均を下回っており、特に国語Bの平均正答率が低く課題点です。算数は、算数A・Bともに県平均とほぼ同程度であるものの、全国平均を下回っており、算数Bの平均正答率が低く課題点です。理科は全国平均及び県平均を若干ではありますが上回っています。

このように全国や県との平均正答率の差で見ると、国語については「知識」「活用」とともに、算数については「活用」に課題が見られるという結果でしたが、中でも説明や自分の考えを書き表すという記述式の問題について苦手意識があり、無回答率も高い状況でした。

【参考】教科別平均正答率（％）

	国 語		算 数		理 科
	国語A	国語B	算数A	算数B	
全国平均	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
県平均	68.5	64.8	74.1	41.9	60.4

2 本校の主な課題

国語A ・漢字の読みはよいが、書き取りの正答率が低い。

下線部の漢字「シャワーを**あ**びる」

・文の中から主語を選ぶという問題の正答率が低い。※①、②両方できて正答。

①「降っていた 雨が、急に やんだ。」

②「ぼくの 妹の 誕生日は、五月二日だ。」

・新聞のコラムという場面提示で、コラムの中から筆者が引用している言葉を見つけ出すという問題の正答率が低い。

国語B ・地域のお年寄りとの交流活動についての新聞を作るという場面設定で、交流活動当日のお年寄りへのインタビューの内容もとにして、題意に合うように指定された字数内で文を書くという問題の正答率が低い。

・提示された文章の要旨を読み取り、指定された字数内でまとめて書くという問題の正答率が低い。

・学習グループごとに合奏をするという設定で、楽器の担当の決め方について図や文章を

- もとの、指定された字数内で説明を書くという問題の正答率が低く、無回答率が高い。
- ある本をもとに学習グループで紙芝居をつくって1年生に読み聞かせをするという場面設定で、指定された条件をもとにして、声に出して読むときの工夫とその理由を、指定された字数内で書くという問題の正答率が低く、無回答率が高い。

算数A

- 小数のひき算の計算の正答率が低い。
 - 「6.79-0.8」・・・位取りの間違が多い。
- 分度器で180°より大きい角度を読み取る問題の正答率が低い。
- 円の中心と周を使って描いた三角形の特徴を見つける問題と、二等辺三角形の角の大きさを求める問題の正答率が低い。

算数B

- 割合についての問題で、「もとの量」を求める式と答えを書く問題の正答率が低い。
- 正三角形を運動場に描くという場面で、巻き尺のメモリ0mと24mを重ねて1つの頂点とするとき、残り2つの頂点となるメモリはそれぞれ何mにすればよいかを答える問題の正答率が低い。
- 4つの数を四捨五入して千の位までのおよその数に表し、それらの和を求める式と答えを書く問題の正答率が低い。
- 4ヶ月間でペットボトルのキャップを10000個集めるという目標のために、これまでの3ヶ月で集めた数の1ヶ月ごとのおよその数を出した合計が7000個ということから、あと1ヶ月で3000個集めればよいという考えが正しいことを、理由を書いて説明するという問題の正答率が低い。
- 長方形の面積を2等分する直線がいずれも1つの点を通るということの説明を図や言葉で示したのち、2つの長方形を組み合わせた図形の面積を2等分する直線が図で示されたものとなることを言葉や数、記号を使って記述するという問題の正答率が低く、無回答率も高い。

理科

- 電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組合せを選ぶ問題の正答率が低い。
- 顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ問題の正答率が低い。
- インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適切な栽培場所を選び、選んだわけを書く問題の正答率が低い。
- 水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題の正答率が低い。
- 水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、その理由を書くという問題の正答率が低い。
- 星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ問題の正答率が低い。

3 教科における主な改善点

国語

- 漢字書き取りの課題があることから、ミニテストを定期的実施したり、漢字を使っての熟語作りや短文作りなどを取り入れて日頃から漢字を使う活動を工夫しながら繰り返し指導をする。
- 文の構成要素「主語」「述語」「修飾語」のきまりについて、基本的な文で復習を取り入れたり、短文作りを行ったりして理解を図るよう学習する。
- 文章を読む力、内容を読み取る力、読解力に課題がある。国語の授業はもちろん、他の教科の授業においても積極的に読む場面を設定して授業を進めるようにする。また、朝読書の時間も有効に活用していく。
- 与えられた条件や例示を理解して、それらを活用しながら、説明や文を書くことに課題がある。学習感想を書く、板書をまとめるなど、ノート指導を中心に書くことを重視した学習活動を取り入れた授業を工夫するとともに、学活や係活動、帰りの会の場面などにも書く活動を工夫していく。

算数

- 小数の計算について、位取りの確認をするとともに、式を立てる時点で概算をして答の見積もりを立ててから計算することにより、位の間違いに自分で気づくようにしていく。
- 小数、分数などの数を具体物や図に表したり、数直線で示したりなど視覚的に表すことにより数を量的にとらえることができるよう指導を工夫する。
- 定規やコンパス、分度器などの用具を使用しての作図や製作活動を意図的に仕組んでいくことにより、図形について体験的に学び、その性質の理解を深めるようにする。
- 基準量、比較量、割合の関係を児童自らが図やグラフに表して説明できることを重視した学習を展開して割合の理解を深めるようにする。

理科

- ・実験の場面などで、児童に結果を予想させる場面を設定し、予想の理由づけを大切にされた学習を展開していく。
- ・観察の場面では、見る視点を明らかにして、観察・記録していくことを丁寧に指導していく。
- ・実験器具や観察用具を使用する活動場面はもちろん、準備から片付けまで、注意点・留意点・使い方を常に意識させるようにしていく。
- ・実験結果の記録の仕方（グラフや表など）を積極的に授業に組み込み、体験しながら学ばせるようにしていく。

4 質問紙調査の主な特徴

(1) 生活習慣について

- ・「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、全く食べていないと回答している児童はいなかったものの、あまり食べていないと回答した児童が若干ではあるがいた。
- ・起床時刻、就寝時刻を問う質問に対して、毎日同じくらいの時刻に起きている・寝ていると解答した児童の割合が全国及び県よりも高い。
- ・一日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間は、「4時間以上」と回答した児童の割合は全国より若干低いものの、「2時間～4時間」と回答した児童の割合は全国よりも高い。
- ・一日当たりのテレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしている時間が、2時間以上（4時間以上、3～4時間、2～3時間の合計）と回答している児童の割合は、全国及び県より高い。
- ・「普段（月～金）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の質問で、30分以上（4時間以上、3～4時間、2～3時間、1～2時間、30分～1時間の合計）と回答している児童の割合は、全国及び県平均より低い。
- ・携帯電話やスマートフォンを持っていないと回答した児童の割合は4割余りで、これは全国及び県平均とほぼ同程度である。

(2) 学習に対する関心・意欲・態度について

- ・「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国及び県の割合より高い。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。その一方で、「当てはまらない」と回答している児童の割合も、全国及び県より高くなっている。
- ・「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」と回答している児童の割合は全国及び県より高い。しかし「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答の割合の合計は、全国及び県より低くなっている。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。
- ・「理科の勉強は好きですか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は非常に大きく、全国及び県より高い。
- ・「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は高く、全国及び県と同程度である。

(3) 家庭学習について

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国及び県より低い。
- ・「家で、学校の授業の予習をしていますか」及び「授業の復習をしていますか」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は、いずれも全国及び県平均とほぼ同程度である。
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の質問に対し、全国では1時間以上2時間より少ない」の割合が最も高いが、本校では「30分以上1時間より少ない」と回答した児童の割合が最も高くなっている。

(4) 地域との関わりについて

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は高く、県とほぼ同程度であり、全国より高い。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国及び県より高い。

(5) 道徳性に関して

- ・「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、県と同程度であり、全国よりやや高い。
- ・「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、全員が「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をしている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国及び県と同様に非常に高い。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国及び県より低い。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国及び県より高い。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国及び県と同様に高いものの、否定的な回答の割合もゼロではなかった。

5 質問紙調査からの改善点

- ・基本的な生活習慣の確立について、これまでに引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨し、各家庭と連携して取り組む。
- ・読書に親しむ児童を一層育てるため、朝読書や家読活動を一層推進していくとともに、市立図書館等の関係機関と連携して読書環境をより充実させていく。
- ・「夢や目標」の持てるよう将来の自分の姿を描けるように、地域人材や先輩の生き方を教材とした授業づくりや、社会科見学等によるキャリア教育を推進していく。
- ・児童会活動やたてわり活動、学校集会などいろいろな場面で、児童一人一人が活躍する場面を意図的に設定し、「認め合う・誉め合う・支え合う・共感し合う」ことを意識した教育活動の推進に取り組んでいく。
- ・携帯電話やスマートフォンを使っている時間が長く、生活リズムの乱れや家庭学習などに影響を与えていることも考えられるので、家庭と連携して早急に改善を図るように努める。
- ・否定的な回答をしている児童について、問題点を明らかにし改善していくように、家庭と連携・協力して取り組んでいく。
- ・児童一人一人の状況をきめ細かく把握し、児童理解に基づいた学習指導・生徒指導に努めていく。

家庭での学習習慣の定着にご協力を！！

本校の児童は、毎日の授業にも一生懸命に取り組んでいます。日直や当番、委員会や児童会活動でもしっかり仕事をしています。特に、毎朝、あいさつ運動に取り組んでいます。児童会や学級役員に加え、たてわり班も玄関先に立ってあいさつ運動を行っています。6年生がリーダーとなって活躍しています。

さて、学習状況調査の結果を見ますと、今後、改善が必要と思われる項目がいくつか目につきます。特に家庭学習の時間が、1時間以上と回答した児童の割合は、全国より低いという状況でした。学習効果は、その集中の度合いによって違いますが、就寝時刻や生活時間から考えて、5・6年生の家庭学習の時間は60分～90分がめやすとも言われています。

学校でも宿題の出し方などについてさらに工夫し、児童自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけていきたいと考えます。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。